J-40

再生するまち
- 新たな社会復帰支援の形の提案 -

The town which reproduces

-Suggestion of the form of new comeback to normal life support-

佐藤信治[1]，○井出健[2]

Shinji Sato[1]，*Takeru Ide [2]

A mind medical care ward and the restitution center are kept away from a city and the said place intentionally and are made.
And I repeat it all too soon without it becoming difficult to come back to its normal life because I let you isolate an alcoholic and the person of drug dependency from the society and cure, and controlling it by oneself even if I reduce it, and treatment is over. There are the present conditions.
Furthermore, there is not living environment after the source, and the convict discharged from prison from a prison and the prison loses a job and commits a crime again, and there are a lot of people coming back to the restitution center.
Therefore I plan facilities supporting people needing comeback to normal life support in new form by this plan.

１．はじめに

精神医療病棟や矯正施設は，都市と言われる場所から意図的に遠ざけられて作られている．

そして，アルコール依存者や薬物依存者は，社会から隔離させて治療していくので，社会復帰することが難しくなり，軽減して治療が終わっても自分でコントロールすることができず，いつの間にか繰り返してしまう．という現状がある．

更に，刑務所や拘置所から出所した受刑者は，出所後の生活する環境がなく，職を失い，また罪を犯し，矯正施設に戻ってしまう人も少なくない．

そこで，本計画では社会復帰支援を必要とする人々を新しい形で支援していく施設を提案する．

２．現状

2-1　アルコール依存者の問題

2003 年に実施された全国成人に対する実態調査によると，飲酒日に 60g（純アルコール量として）以上飲酒していた多量飲酒の人は 860 万人，アルコール依存症の疑いのある人は 440 万人，治療の必要なアルコール依存症患者は 80 万人いると推計されている．

2-2　薬物依存者の問題

薬物依存は,薬物乱用というルール違反の下にあるものなので,薬物依存症者数は確かめることができない．しかし，国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部の調査によると，大麻・覚せい剤などの違法薬物を障害で使用したことがある人は推計約 276 万人とされている．

2-3　刑務所などからの出所者の問題

刑務所の受刑者の再犯率は約 42％であり，2010 年の再入所者のうち約 73％は無職という現状がある．

これは現在刑務所内で行われている刑務作業が内職のような仕事であり，再就職する時には役立たなかったりすることや，出所時に支給される作業報奨金の支給額が約 4 万円という少額であることからすぐに底をついてしまうこと，そして刑務所内で受けられる職業訓練といったものも本当にひと握りの受刑者しか受けられないといった様々な問題がある．

３．基本計画

3-1　計画目的

・社会との隔離という治療の仕方だったアルコール依存者や薬物依存者や､矯正施設などから出所後に，生活するための環境の確保ができなかった出所者が働き、様々な人と関わりながら社会復帰を目指していく．

・行政と民間が協力して社会復帰支援者へのサポートを行っていく．

3-2　敷地選定

計画敷地を考えると，社会から隔離されていた人達が暮らしていく場となるので，人との関わりを多くとれる場でありながら，町としてもその施設があることで何かプラスにならないといけない．

そうした点から，東京都葛飾区小菅を敷地する．小菅の現状としては，町の半分の敷地を有する東京拘置所の官舎に住む人と町に住む人との関わりが，同じ町なのに塀で分断されていることから希薄であ

１：日大理工・専任講師・海洋建築工学科　Department of Oceanic Architecture & engineering , CST , Nihon-U.

２：日大理工・学部・海洋建築工学科　Department of Oceanic Architecture & engineering , CST , Nihon-U.

る.町としても，町工場などが多く，年配の人が多く暮らしている．今の時代，３K という言葉があるように，こうした場所では若者たちは働かず，都会に出ていってしまう．

こうした点から，町に新たな施設が建つことで町の活性化を図ることができるのと，拘置所のような矯正施設がある町の問題を新しい施設を建てることで解決できるのではないかと思い，この場所を計画地に選定した．

fig.1　Around plan place bird's-eye view

fig.2　Around plan place figure

４．建築計画

施設の具体的な計画としては，「町」と「拘置所」の境界となっている場所に最低限の居住機能と病院機能兼ね備えた拠点を建て，この施設で生活する人達は，施設内で生活しながらも町に存在する空き地や，空き家になっている場所に自分達が社会復帰支援に向けた施設を建て，自分たちが活動する場所や町の人々が新たに集う場所を作りながら、町自体を新しく作り変えていく．この施設内だけではなく，町に多く存在し区としても推進している町工場で働くなど，町と積極的な連携を図ることで衰退していく町を活性化させる．

民間と行政が協力することで，矯正施設やその施設がある町の取り組みを，この施設を通して新しい在り方として提案していくことができる．

５．必要機能

・重度のアルコール依存者や薬物依存者の治療を行うための病院機能.

・刑務所や拘置所から出所した後に住む場所を失ってしまった人などが，この場所で集団生活をしながら社会復帰を目指していくことのできる住居機能.

・本格的な社会復帰に向けて，刑務所の中で行っていた刑務作業のような内職的な作業ではなく，実用的な新しい社会復帰支援プログラムを行う施設.

・町との連携を積極的に行えるように、共用することができる施設.

６．葛飾町工場物語

fig.3　Katsushikacho factory story logo

葛飾区は，23 区内で 3 番目の工場集積地で，多種多様な業種の工場がある．葛飾区と東京商工会議所葛飾支部では，区内製造業が高い技術を駆使し製造した製品や部品等を，葛飾ブランド「葛飾町工場物語」として認定し，ストーリー性豊かに全国へ発信している．

このような活動を積極的に行っていることから，地域と新たに計画する施設の連携を図り，より全国にアピールしていくことができる．

７.参考文献

[1]]みんなのメンタルヘルス
http://www.mhlw.go.jp/kokoro/index.htm
[2]更生応援ブログ
http://blog.canpan.info/kou-sei/
[3]【コレって、どうなの？】 Vol.35『出所者の再犯率４２％も頷ける、「最後のセーフティネット」と化した刑務所の実情』
http://www.tfm.co.jp/timeline/?itemid=52724